

藤根與治郎 藤原八弥 兄弟展

2015年12月1日(火) ~ 2016年1月31日(日)

●会場：萬鉄五郎記念美術館



左から/
藤根與治郎
《藤根家の兄弟》
鉛筆・紙
108.5×76.7cm
昭和初期 個人蔵

藤原八弥《誇》
水彩・紙
108.5×77.0cm
1974(昭和49)年
個人蔵

花巻市東和町出身の藤根與治郎(1903-1959)は、独学で絵画を学び、花巻や遠野を中心に死者の肖像を数多く描きました。その弟、藤原八弥(1914-1998、旧姓藤根)は、教員をしながら画家を志し、郷里の風景や、鬼剣舞をテーマに数多くの作品を制作し、民俗芸能の発展にも貢献。北上・国見山地区の文化復興にも尽力しました。

この度の展覧会では、與治郎が残した肖像画の民俗的な意義と、八弥が描いた懐かしい郷里の風景や郷土芸能を描いた作品を紹介します。

●休館日 月曜日(月曜が祝日の場合翌日)、12/28-1/4

●開館時間 8:30 ~ 17:00(入館は16:30まで)

●入館料 一般500(450)円、高校・学生350(300)円、小・中学生200(150)円 * ()内20名以上の団体料金

いわての立体造形展

2016年2月6日(土)～4月17日(日)

●会場：萬鉄五郎記念美術館

優れた彫刻家を何人も輩出した岩手。収蔵品より選りすぐり
岩手の彫刻作品を紹介します。

出展作家：欠畑美奈子、柵山龍司、佐藤祐司、多田雅彦、田村史郎、
舟越健次郎、舟越保武 他

舟越保武《つやこ》 1935年



参加募集!

土澤アートクラフトフェア

アート作品・クラフト作品などクリエイターのお店200組を募集します。

- 開催日時 2016年5月3日(火・祝)～5月4日(水・祝) 10:00～16:00
- 会場 土澤商店街& 萬鉄五郎記念美術館前庭(花巻市東和町土沢)
- 募集期間 2016年2月1日(月)～13日(土) ※応募多数の場合抽選となります
- 申込・問合せ先 土澤アートクラフトフェア事務局
花巻市東和町土沢5-405「キクヤ薬局」内 電話：0198-42-2632 メール：tuchizawa_market@yahoo.co.jp
ホームページ：http://arttsuchizawa.com/ ブログ：http://arttsuchizawa.blog.fc2.com/



萬鉄五郎記念美術館 年末年始の休館について

年末年始は下記の期間お休みいたします。新年は1月5日(火)より開館いたします。

休館期間：12月28日(月)～1月4日(月)

喫茶「八丁土蔵」

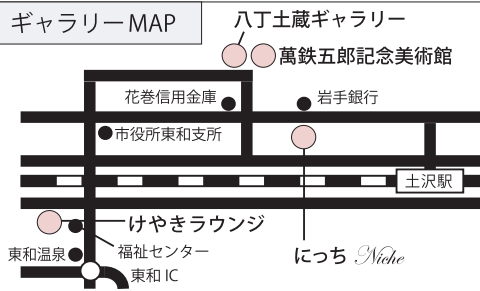


萬鉄五郎の本家「八丁」にあった土蔵を移築復元した、ギャラリーと
喫茶スペースです。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ
一度ご賞味ください。 営業時間：10:00～16:00 (lo.15:30)

美術の街「土沢」 ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて、「美術の街」土沢めぐりをしてみてはいかがでしょうか。

ギャラリーMAP



萬鉄五郎記念美術館

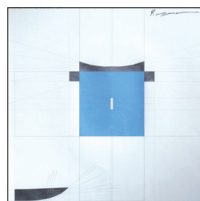
八丁土蔵ギャラリー

花巻市東和町土沢 5-135 萬鉄五郎記念美術館内
9:00~16:30 月曜休(祝日の場合は翌日) 入場無料

iwate コンテンポラリーアート

新里陽一 展 11/7(土)~1/31(日)

雫石町在住の画家。繊細さと力強さが同時に存在する世界。



Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205
10:30~18:00 (最終日は16:00まで) 入場無料

第14回けやきの会

チャリティ小品展

12/1(火)
~12/27(日)

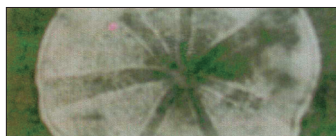
歳末恒例の温まる小品を廉価で提供。



コレクション展

1/4(月)~1/31(日)

K氏のコレクション作品。版画・水彩画・ドローイングなど小品ながら密度の濃い作品たち。



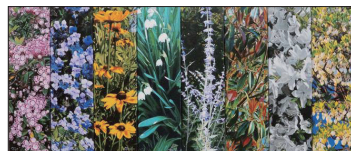
世界の雑貨とギャラリー *にっち Niche*

花巻市東和町土沢8-115 こぼら土澤1階
10:00~17:00 火曜定休 入場無料

五十嵐 彰 作品展 12/2(水)~14(月)

Ima-地・彩2015シリーズ

いつも原寸大の気持ちで身近な自然に向き合ってきた画人、五十嵐彰が描く季節を彩る植物の数々。



羊いっぱい展

2016

1/27(水)~2/8(月)

木工作家、羊毛作家、切り絵作家、三人による羊をキーワードにした作品展。



見返り美人

はなく、ひとつのユートピア的な世界に解放され遊んでいる水浴裸婦である。セザンヌが追求した「水浴図」と共通の造形性があり、私はすごく惹かれる。萬の愛した「見返り美人」である。

萬鉄五郎の見返り美人『雲と裸婦』（1921年）は、後を振り向いた裸婦が沸き立つ雲を背景に、高い緑地に立っている、いささか人を喰った珍しい図である。同じポーズの絵が、このほかに油彩で数点、木版画にもなっている。反アカデミズムを貫いた萬としては珍しく、晩年初めて帝展（第3回）に応募し、落選した『水浴する三人の女』の中央の裸婦で、それと同じ構図である。それだけ萬のこだわりが見て取れる。落選後『水浴する三人の女』は、後によりよって断裁されて失われたが、下絵としてのデッサンが数枚残っているの

で全体像が想像できる。また、この三人の左側のポーズが、ラクビーの五郎丸選手のキックの姿勢とそっくりな『宙腰の人』になっている。

大胆な線で裸形を単純化した人体の造形は、通常の官能美を描いたもので

モネ初期の作品『カミーユ・緑衣の女』（1866年）は二度目のサロンに出品して好評を得た作品で、マネの人物画の影響が強くまだ印象派風になっていないが、スカートの緑の発色が美しい。浮世絵の影響を受けた「見返り美人」のポーズである。このポーズの女性像は、そもそもヨーロッパにはなかった。

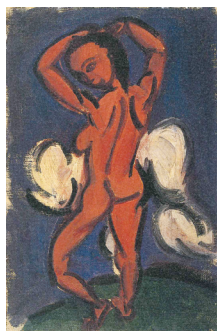
また、マネが第2回印象派展に出品した『ラ・ジャポネーズ』（1878年）は、カミーユが日本の着物をまとい、手に扇をかざして振り向いたポーズで、床や壁には団扇が多く描かれている。日本ひいきのマネは熱心な浮世絵のコレクターで、その圧倒的な影響を受けていた。

同じように、このポーズを印象派の画家たちがこぞって描いている。ルノアールの『踊り子』（1874年）は、振り返ったバレリーナを柔らかい筆致

で描いた作品。第1回印象派展の出品作だが、足の線がはっきりしないブワブワだと当時不評を買った。マネの『ナナ』（1877年）も、ゾラの小説の主人公に呼応した、下着を着けた高級娼婦が振り返った図である。コロアの『青衣の婦人』（1874年）は、マネ作品『カミーユ・緑衣の女』と同じポーズである。

これらの元祖は、浮世絵の創始者菱川師宣の『見返り美人』で、記念切手にもなっている。

萬鉄五郎記念美術館長 中村光紀



萬鉄五郎
《雲と裸婦》
1922年頃 平塚市美術館蔵



クロード・モネ
《カミーユ・緑衣の女》
1866年 プレーメン美術館蔵

萬鉄五郎記念美術館 岩手県花巻市東和町土沢 5-135 Tel.0198-42-4402 8:30am. ~ 5:00pm.

yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/503/p004177.html> 月曜休館（祝日の場合その翌日）

発行人／東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明